

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471903128
法人名	株式会社 有愛
事業所名	グループホームゆう愛
訪問調査日	平成24年11月21日
評価確定日	平成25年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	14070903128	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	株式会社 有愛			
事業所名	グループホームゆう愛			
所在地	(238-0014)			
	神奈川県横須賀市三春町1-9-34			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月4日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通量が少なく落ち着いた市街地にあり、交通の便がよく、道の起伏もない環境にあります。散歩や買い物といった日課を行ううえで適した環境にあり、個別に外出の機会を提供できるように取り組みを行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成24年11月21日	評価機関 評価決定日	平成25年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営母体は、株式会社有愛である。同社は、他の場所に新規に開設の意向の視野を持ち、現在は、このホームに尽力を注ぎ、運営している。このホームは、グループホーム用として建設された2階建の建物で、廊下は2台の車椅子が十分に行き交えるほど広い整えられている。浴室も広く、浴槽が真ん中にあり、3方向から介助ができる仕様となっている。また、屋上までエレベーターが設置され、屋上の広いスペースは、食事会や日光浴・外気浴などに利用する等、使い勝手の良い工夫がなされている。立地は、京急線県立大学駅から徒歩10分の国道16号線から3ブロック程海側に入った所で、車があまり通らない静かな環境下にある。開所以来の管理者は、基本方針として「チームケア」を継続して求めており、その為非常勤といえども介護には常勤と同じ心掛けで介護に臨む必要性の意識付けを指導し、少しずつスキルアップの成果を見せている。職員の定着率が高く、長年努めている職員が多い事もあり、利用者は、穏やかに安心して生活され、ADLの低下が緩やかな方が多い。

②地域との交流は、町内会に加入して、町の行事に参加している。夏祭りには、ホームの駐車場を開放し、休憩場として使っている。運営推進会議のメンバーの依頼で、町内の有志にグループホームの見学会を実施している。昨年・今年と2年連続で開催した10月のホーム主催の「ゆう愛祭り」は、模擬店を出し、地域住民・子供達に多数参加頂き、利用者も賑やかに楽しめた。今年は、地元の小学校4年生の授業の一環として年間にわたる体験学習の交流が企画され、これまで3回訪問があり、顔見知りになったことから利用者と親しく交流が行われている。また、中学生の体験学習は恒例となっており、毎年2、3校を受け入れている。

③外出については、開所以来7年目を迎えており、車椅子利用の方が半分を超えており、遠出の散歩は難しくなっているが、交通量の少ない市街地で道路の起伏も少ない環境を利用して天気の良い日は、周辺の散歩をこまめに行い、更に、ホームの屋上でお茶会や日光浴等で、外気に触れあう機会を大切にしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆう愛
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に状況に応じて自立した生活ができるよう支援している。また、各ユニットの特性を活かし、チームケアをかかげ、個々の職員の能力に合わせた人材育成に努めている。	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々の利用者の状況に応じて自立した生活ができるよう支援している。各ユニットの特性を活かし、チームケアを掲げて、一人の利用者を職員皆で支える事をモットーに、非常勤職員の意識改革も含め、それぞれの職員が介護の対応に差異がないよう人材育成に努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕、夏祭り、盆踊り等の地域行事への参加、中学生の体験学習、その他ボランティアの依頼、受け入れを行っている。また、散歩などの際は、日常的な挨拶をホーム全体で行えるよう心掛けている。昨年10月本年度10月に「ゆう愛まつり」を開催。地域の方々と交流を深めている。	町内会に加入しており、七夕・夏祭り・盆踊り等の地域の行事に参加している。地域の方の見学会の受け入れ、ボランティアの受け入れ(フラダンス・大正琴・三味線等)も行っている。散歩の際は地域の方に日常的に挨拶をするよう心がけている。2年連続10月に開催したホーム主催の「ゆう愛まつり」では模擬店も出して地域の方々にもお声がけをして参加頂き、盛大に行われ、良好な関係が築けている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	挨拶を中心に近隣住民の方との交流に努めている。年1回「ゆう愛まつり」を開催。民生委員に協力していただき町内の掲示板にポスターを掲示。事業所より地域の方々に向けて交流の機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、ご家族のご意見を可能な限り、ホームに反映できるよう取り組みを行っている。家族懇親会をご家族同志の交流を目的として実施。運営推進会議と合わせて行っている。	運営推進会議は2カ月に一度、定期的で開催されている。地域代表・民生委員・ご家族・市職員(年1回)等の構成にてホームの活動報告を中心に報告し、ご意見を伺いホームの運営に反映させている。運営推進会議に合わせて、ご家族同士の交流を図り、家族懇親会を行っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、ご家族からの相談、またその他ホームにおける取り組みなどの確認事項等は、日常的に行うよう努めている。	市役所とは、必要な場合に電話連絡や文書で連携を図っている。市役所からのタイムリーな研修の案内を頂いた際は職員が参加している。また、横須賀市のグループホーム連絡協議会の定例会議や研修会にも参加し、情報収集や他のホームとの情報交換を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、玄関チャイムを設置。常勤職員を中心に各職員が理解できるよう、人材育成、指導を行っている。	身体拘束をしないケアを行っている。気になる出来事が起こった時には、ユニット毎に話し合い解決すると同時に、常勤職員を中心に全職員が理解できるよう指導を行っている。また、玄関の施錠は行わず、玄関チャイムを設置している。重度化による転倒を防止するために夜間、一部の居室ではセンサー設置をして予防を行っている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。また、外部研修へ可能な限り参加し、事業所に反映できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでの事例を活かして、常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における重点事項については、十分にご理解を得られるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族の方との信頼関係が築けるよう努め、安心できるホームとなるよう日々改善に取り組んでいる。また、家族懇親会、運営推進会議での提案を参考に行っている。	日常的にご家族との信頼関係を築けるよう努め、安心できるホームとなるよう日々改善に取り組んでいる。ご家族の訪問は多く、訪問の際には、ご本人の状況と伝えたり、ドクターの話を伝えたり、フットワーク良く状況報告を行っている。来所の少ないご家族には、毎月写真入りの「生活状況のお知らせ」を送り、安心して頂いている。また、ご家族が訪問された時にはご意見や提案を伺い、参考に行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに月1回のフロアー会議の開催、また事業所全体の課題解決にむけた取り組みとして常勤会議を開催している。日常的に職員の関係性を深め、改善点等には積極的に取り組むよう努めている。	各ユニット毎に月1回のフロア会議を開催し、意見交換している。事業所全体の課題解決には、常勤者会議を開催して検討をしている。管理者は日頃から職員との関係性を深め、会話を通して改善点があれば積極的に取り組むように努めている。職員との個人面談も行ない、意見等を聞く機会を設けている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試用期間後、また年度末に個人面談を実施。各職員の就業態度、実績に応じた評価を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の状況に合わせて、可能な限り外部研修への参加、会議内での内部研修に努めている。また、日々の業務の中で、指導が行えるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域連携事業、また市のグループホーム協議会を通じて、研修会に参加。懇親会、ボランティア等には積極的に参加できるよう心掛け、他事業所との情報交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の状況をふまえ、面会等の必要性など随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせる為の環境の構築に努めている。また、状況に合わせて、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの体制をご理解いただいた上で、密に連絡を取り、可能な限りご家族様の意向を考慮できるよう努めている。また、各ご家族の要望等フロアー職員にが周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子、生活歴を十分検討し、ご家族の方と密に連絡を取りながら、ご事情に合わせて支援の方向性を示せるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々の状況に応じて、生活の場として演出できるよう関係性に配慮し、対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには、ご入居者の方々の状況報告に努めると共に、日々支援の方向性について検討し、信頼関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向、状況に合わせてご家族の方と相談し、可能な限り、個別外出の機会を提供したり、実現できるよう努めている。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、ご本人の意向や状況に合わせて、ご家族と相談しながら、可能な限り個別外出の機会を提供し、日帰りでお墓参りや法事、外食への参加を支援している。また、昔ながらの友人や現役の頃のお弟子さん等の訪問もあり、歓迎している。お正月には年賀状のやり取りの支援もしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課、散歩、アクティビティーを中心に、入居者の方々の自発性を重視し、入居者個人の生活を演出できるよう取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご様子や経過等、連絡を取りながら、随時、相談等の支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の情報をもとに、ご本人の状況を十分検討しつつ、可能な限り個別ケアが実施されるよう取り組みを行っている。	それぞれのご利用者の情報をもとに、ご本人の状況を配慮しながら十分に検討しながら、可能な限り、ご本人の意向に沿うよう個別ケアを実施している。また、外出や買い物にお連れするように取り組んでいる。ご本人が希望されない場合は、無理強いすることがないように注意している。ご利用者の過去の生活歴を見て、昔ご本人が好きだった事等も参考にしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方からの情報をもとに、ご本人がこれまでの生活を可能な限り継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態に合わせて、ご本人の身体面、精神面を十分に考慮しつつ、その人らしい生活が提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の状況がスタッフ全員で把握できるよう、モニタリングシートを作成している。面会時や、状態の変化に合わせて、随時ご家族の方と相談の機会を設け、月1回のフロアーミーティングでは、支援の方向性をスタッフ間で共有している。	一人ひとりの状況が全職員が把握できるよう、ホーム独自の「生活モニタリングシート」を作成して実施している。面会時や状況の変化に合わせて随時、ご家族の方と相談の機会を設け、月1回のフロア会議では、支援の方向性を職員全員が共有してチームケアができるように取り組んでいる。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきにつながるよう、日々のありのままの様子を事実のまま記録するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に合わせて十分な説明、相談の機会を設け、可能な限り、柔軟かつご負担にならないよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向に沿って、可能な限り、個人ケアを実施できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご家族のご事情に合わせて、協力医療機関を決定し、状況に応じて協力医療機関への通院の同行を行っている。現状では、24時間対応の内科、神経内科(月1回) 接骨院(随時)、歯科(随時)の往診あり。また、週1回看護師の健康観察と連携を図っている。	ご家族の都合に合わせて協力医療機関を決定して頂いている。状況に応じて協力医療機関への通院にも同行している。現状では、24時間対応の内科(月2回) 神経内科(月1回) 接骨院(随時) 歯科(随時)の往診があり、適切な医療が受けられるよう支援している。また、週1回、看護師の健康観察が行われている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットごとに医療面からのアプローチを行っている。また、必要に応じて内部研修の実施。日常的な心身の状態の変化については、随時連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からの情報、面会時のご様子、また担当看護師、主治医と退院にむけたホームからの意向を確認。随時状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの意向、ホームの方針を十分に相談、ご理解して頂いたなかで、支援計画書を作成。心身の状態については、随時報告、終末期のあり方については、早期に方向性が示されるよう、主治医を含め検討を行っている。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、ご家族からの意向を踏まえ、ホームの方針を話し、十分に相談を行ない、ご理解を頂いた上で支援計画書を作成している。心身の状態については、随時報告している。終末期のあり方については、早期に方向性が示されるよう、家族、主治医を含めて検討を行っている。昨年、結果的には病院に移られたが、看取り介護が実施されたケースもある。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成、各職員が周知できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の防災訓練の実施。また、民生委員を通じて地域の防災対策の情報をいただいたり、連携に努めている。	年に2回の避難訓練を実施している。内、1回は消防署立会いで行っている。訓練の際は近隣住民に参加のお誘いを行っているが、まだ参加は頂けていないが、今後も取り組む予定でいる。運営推進会議のメンバーである民生委員を通じて、地域の防災対策の情報を頂いたり、ホームについて広域防災の場で話して頂いたりして連携に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意を払い、言葉かけや対応にも自尊心に配慮しつつ、個々の状況に合わせて対応している。	職員には、「入居者への対応」についてマニュアルを事務所に掲示し、特にご利用者の尊厳を損なわないよう言葉かけに注意喚起を行なっている。ご利用者に対応する際には、穏やかな口調で優しい表情を全職員が心掛けて接している。リビングでのご利用者の表情は、穏やかで、落ち着いた雰囲気は調査の際に見受けられた。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、職員間で情報が共有できるよう努め、可能な限り、外出等の個人ケアの充実に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況等に配慮しつつ、その方に合ったペースで生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の自己決定を大切に個人の状態に合わせて、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、切る、煮る、炒める、盛り付け等の作業を手伝っていただいている。また1階では、10日と20日をフリーメニューとし、入居者の希望にそった食事を提供している。	メニューと食材の手配は、業者に任せているが、調理は個々の能力に合わせて、切る・煮る・炒める・盛り付け等の作業を手伝って頂いている。特定の日（1Fは、10日と20日 2Fは、5の日）をフリーメニュー日として、ご利用者の希望に沿った食事を提供し、楽しみのある食事の支援をしている。外食は、遠出のドライブ等の際に行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事量、水分量のチェックを行い、体調管理に努めている。また、ご本人の嗜好、状態にあわせたメニュー、また調理法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を用いて、毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ使用の有無の確認、排尿パターン、排尿量のチェック等を行い、状態に応じて、随時フロア内で検討、機能向上に向けた取り組みを行っている。	一人ひとりのトイレ使用の有無の確認や、排泄パターンを把握し、昼食の前後やおやつ前後にはトイレ誘導を行っている。各フロアで、個々の状態に応じて、随時検討を行ない機能向上に向けて取り組んでいる。トイレに座る機会を多くすることも取り入れながら自立支援を行っている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、活動量に配慮し、主治医と連携し下剤等の調整を随時行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の状況に合わせて清潔保持ができるよう、希望に合わせた入浴を行っている。	入浴では、ご利用者の状況に合わせてながら、清潔保持が出来るよう2日置きを基本として支援している。希望により1日置きに入浴される方も居る。重度化により二人介助での入浴者増えてきているが、浴槽が3方向から介助できるので、機能的に介助できている。汚れた際は、随時シャワー浴で支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、体調面に配慮しつつ、生活のリズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に合わせて、主治医と連携し、内服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて、家事や散歩、趣味にあわせた活動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天時以外は、希望に応じて近隣のホーム周辺や公園への散歩を行っている。	重度化により車椅子対応の方が半分以上いる為、あまり遠くには行けないが、雨天時以外は、希望に応じて近隣のホーム周辺を散歩したり、買い物に行ったりして外の空気に触れている。玄関の駐車場、屋上では、外気浴に最適な環境にある。遠出は、春と秋にお花見・菖蒲園等にドライブしている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の意向にて、預かり金を使用、管理している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向、状態に合わせて、手紙の執筆や電話の使用を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、換気等に注意し、清潔保持に努めている。また、季節に応じた飾りつけなどを工夫している。	ホームは、空調、換気に注意し、清潔保持に努めている。リビングには、ご利用者がレクで作成された季節に応じた貼り絵を飾り付けられたり、習字の作品や行事の写真を掲示し、訪問されたご家族に喜ばれている。毎朝8時半過ぎに、リビング、廊下の掃除を職員と一緒に一部お手伝いしている。ホームの廊下は広く、開放感に繋がっており、ご利用者が居心地良く過ごせる環境作りがされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同志の関係性に配慮し、自発的な行動ができるよう環境の演出に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談の上、安全かつ落ち着いた環境となるよう配慮している。	ご家族、ご本人と相談の上、使い慣れた家具や備品を持ち込んで頂き、安全で落ち着いた居室になるよう配慮している。テレビを持ち込んでいる方もいる。ご家族の訪問が多いこともあり、居室には来客用のいすが置いてあり、配慮されている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせて、ご家族に相談、安全に生活できるよう環境の整備に努め、個人ケアに取り組んでいる。		

事業所名	グループホームゆう愛
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に状況に応じて自立した生活ができるよう支援している。また、各ユニットの特性を活かし、チームケアをかかげ、個々の職員の能力に合わせた人材育成に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕、夏祭り、盆踊り等の地域行事への参加、中学生の体験学習、その他ボランティアの依頼、受け入れを行っている。また、散歩などの際は、日常的な挨拶をホーム全体で行えるよう心掛けている。昨年10月本年度10月に「ゆう愛まつり」を開催。地域の方々と交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	挨拶を中心に近隣住民の方との交流に努めている。年1回「ゆう愛まつり」を開催。民生委員に協力していただき町内の掲示板にポスターを掲示。事業所より地域の方々に向けて交流の機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、ご家族のご意見を可能な限り、ホームに反映できるよう取り組みを行っている。家族懇親会をご家族同志の交流を目的として実施。運営推進会議と合わせて行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、ご家族からの相談、またその他ホームにおける取り組みなどの確認事項等は、日常的に行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、玄関チャイムを設置。常勤職員を中心に各職員が理解できるよう、人材育成、指導を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。また、外部研修へ可能な限り参加し、事業所に反映できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでの事例を活かして、常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における重点事項については、十分なお理解を得られるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族の方との信頼関係が築けるよう努め、安心できるホームとなるよう日々改善に取り組んでいる。また、家族懇親会、運営推進会議での提案を参考に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに月1回のフロアー会議の開催、また事業所全体の課題解決にむけた取り組みとして常勤会議を開催している。日常的に職員の関係性を深め、改善点等には積極的に取り組むよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試用期間後、また年度末に個人面談を実施。各職員の就業態度、実績に応じた評価を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の状況に合わせて、可能な限り外部研修への参加、会議内での内部研修に努めている。また、日々の業務の中で、指導が行えるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域連携事業、また市のグループホーム協議会を通じて、研修会に参加。懇親会、ボランティア等には積極的に参加できるよう心掛け、他事業所との情報交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の状況をふまえ、面会等の必要性など随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせる為の環境の構築に努めている。また、状況に合わせて、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの体制をご理解いただいた上で、密に連絡を取り、可能な限りご家族様の意向を考慮できるよう努めている。また、各ご家族の要望等フロアー職員にが周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子、生活歴を十分検討し、ご家族の方と密に連絡を取りながら、ご事情に合わせて支援の方向性を示せるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々の状況に応じて、生活の場として演出できるよう関係性に配慮し、対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには、ご入居者の方々の状況報告に努めると共に、日々支援の方向性について検討し、信頼関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向、状況に合わせてご家族の方と相談し、可能な限り、個別外出の機会を提供したり、実現できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課、散歩、アクティビティーを中心に、入居者の方々の自発性を重視し、入居者個人の生活を演出できるよう取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご様子や経過等、連絡を取りながら、随時、相談等の支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の情報をもとに、ご本人の状況を十分検討しつつ、可能な限り個別ケアが実施されるよう取り組みを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方からの情報をもとに、ご本人がこれまでの生活を可能な限り継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態に合わせて、ご本人の身体面、精神面を十分に考慮しつつ、その人らしい生活が提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の状況がスタッフ全員で把握できるよう、モニタリングシートを作成している。面会時や、状態の変化に合わせて、随時ご家族の方と相談の機会を設け、月1回のフロアーミーティングでは、支援の方向性をスタッフ間で共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきにつながるよう、日々のありのままの様子を事実のまま記録するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に合わせて十分な説明、相談の機会を設け、可能な限り、柔軟かつご負担にならないよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向に沿って、可能な限り、個人ケアを実施できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご家族のご事情に合わせて、協力医療機関を決定し、状況に応じて協力医療機関への通院の同行を行っている。現状では、24時間対応の内科、神経内科(月1回) 接骨院(随時)、歯科(随時)の往診あり。また、週1回看護師の健康観察と連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットごとに医療面からのアプローチを行っている。また、必要に応じて内部研修の実施。日常的な心身の状態の変化については、随時連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からの情報、面会時のご様子、また担当看護師、主治医と退院にむけたホームからの意向を確認。随時状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの意向、ホームの方針を十分に相談、ご理解して頂いたなかで、支援計画書を作成。心身の状態については、随時報告、終末期のあり方については、早期に方向性が示されるよう、主治医を含め検討を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成、各職員が周知できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の防災訓練の実施。また、民生委員を通じて地域の防災対策の情報をいただいたり、連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意を払い、言葉かけや対応にも自尊心に配慮しつつ、個々の状況に合わせて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、職員間で情報が共有できるよう努め、可能な限り、外出等の個人ケアの充実に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況等に配慮しつつ、その方に合ったペースで生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の自己決定を大切に個人の状態に合わせて、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、切る、煮る、炒める、盛り付け等の作業を手伝っていただいている。また1階では、10日と20日をフリーメニューとし、入居者の希望にそった食事を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事量、水分量のチェックを行い、体調管理に努めている。また、ご本人の嗜好、状態にあわせたメニュー、また調理法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を用いて、毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ使用の有無の確認、排尿パターン、排尿量のチェック等を行い、状態に応じて、随時フロア内で検討、機能向上に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、活動量に配慮し、主治医と連携し下剤等の調整を随時行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の状況に合わせて清潔保持ができるよう、希望に合わせた入浴を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、体調面に配慮しつつ、生活のリズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に合わせて、主治医と連携し、内服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて、家事や散歩、趣味にあわせた活動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天時以外は、希望に応じて近隣のホーム周辺や公園への散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の意向にて、預かり金を使用、管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向、状態に合わせて、手紙の執筆や電話の使用を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、換気等に注意し、清潔保持に努めている。また、季節に応じた飾りつけなどを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同志の関係性に配慮し、自発的な行動ができるよう環境の演出に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談の上、安全かつ落ち着いた環境となるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせて、ご家族に相談、安全に生活できるよう環境の整備に努め、個人ケアに取り組んでいる。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームゆう愛

作成日

平成24年11月21日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	認知症ケアにおけるチームケアの実践、職員間の連携不足	各職員が自己の課題と向き合い、解決につながる意見交換ができる	自己の振り返り、課題と向き合えるよう日々の業務の中でコミュニケーションの機会を増やす。	6ヶ月
2	2	入居者、個人個人と向き合い考察を深めるための取り組み	事業所全体として方向性を統一する	外部研修への参加 常勤会議での各ユニットにおける課題検討	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。